

工芸の
技、
極まれり



ライティング・ビューロー 明治時代 金子皓彦氏所蔵

Mosaic Wood-work

寄木細工

Art & History

金子皓彦コレクションを中心に

2018 9.22(土) — 11.11(日)

横浜市歴史博物館

〔主催〕横浜市歴史博物館 〔共催〕横浜市教育委員会

<https://www.rekihaku.city.yokohama.jp>



四方箱 江戸時代 金子皓彦氏所蔵

Mosaic Wood-work

寄木細工

Art & History

金子皓彦コレクションを中心に

寄木細工とは、色や木目が異なる木のかげらや板を組み合わせて創り出した、いろいろな模様やかたちによる木工装飾の技術です。

日本では江戸時代になると駿河国府中（現在の静岡市）や相模国箱根（神奈川県）で製



飾箆箱 明治時代 金子皓彦氏所蔵



花鳥図文箱 明治時代 金子皓彦氏所蔵

作されました。寄木の幾何学的な文様で飾られた家具や手回りの道具の至芸に、庶民はもちろん武家や大名までもが魅せられました。幕末以降は外国人をも魅了し、横浜から主に欧米に向けて盛んに輸出されました。

本展では、永く寄木細工の作品を収集してこられた金子皓彦氏より、選び抜いた家具や道具類をお借りし、その美しさと優れた技術をご覧いただきます。またさまざまな文様や製作技法、寄木細工にまつわる歴史的なエピソードも紹介します。

寄木細工に見る美と高度な技術の世界をぜひお楽しみください。



文化庁

本企画は、横浜市歴史博物館を中核館とする「よこはま地域文化遺産デベロップメント・活用事業実行委員会」が「平成30年度文化庁地域の美術館・歴史博物館クラスター形成支援事業」の一環として実施します。

関連事業

◆見てみよう、寄木細工の文様づくり

寄木細工の文様の製作技法について実演を見ながら学びます。
10/6(土)・7(日) 11:00～、13:00～、14:30～、15:30～
(各回30分程度)

講師：篠田英治氏(寄木細工技能師)

会場：研修室 定員：各回30名 参加費：200円

受付：当日先着順(10分前から受付を始めます)

◆講演会「日本の輸出工芸と寄木細工」

10/28(日) 14:00～15:30

講師：金子皓彦氏(日本輸出工芸研究会会長)

定員：150名(事前申込が必要です)

参加費：無料(ただし企画展チケットが必要です)

◆ギャラリートーク

金子皓彦氏(日本輸出工芸研究会会長)による展示解説

10/7(日) 13:30～、11/11(日) 14:00～

当日受付(開始時刻までに企画展示室前にお集まりください)

参加費：無料(ただし企画展チケットが必要です)

「講演会」の申込み方法

●当館ウェブサイト

<https://www.rekihaku.city.yokohama.jp>
イベント申込みページの「企画展・特別展関連イベント」から申込画面にお進みください。

※スマホ・タブレット不可。動作保証しておりません。

※プライバシーポリシーをご了承のうえ、お申し込みください。

※応募受付完了メールが届かない場合、申込みは完了していませんのでご一報ください。

●往復はがき

①ご希望のイベント名 ②〒・住所 ③氏名(ふりがな)
④年齢 ⑤電話番号 ⑥何を見てイベントを知ったかを明記のうえ、博物館までお送りください。はがき1枚につき1名まで。

※個人情報他は他の目的に使用することはありません。

●締切：10/17(水)必着(ウェブサイトは17:00まで)

展示構成

プロローグ 寄木細工とは

I 寄木細工の始まり

II 寄木細工をつくる

III 寄木細工の美

エピローグ 寄木細工と現代



入子硯蓋 明治時代 金子皓彦氏所蔵



横浜市歴史博物館

〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-18-1

Tel.045-912-7777 Fax.045-912-7781

交通：横浜市営地下鉄「センター北」駅下車、1番出口から徒歩5分
駐車場あり(1時間200円)

開館時間：9:00～17:00(券売は16:30まで)

休館日：毎週月曜日(9/24と10/8を除く)、9/25(火)、10/9(火)

観覧料：企画展＝大人600円/高・大生300円/小・中学生100円

共通券＝大人800円/高・大生400円/小・中学生100円

横浜市歴史博物館は(公財)横浜市ふるさと歴史財団が指定管理者として管理・運営しています

同時開催

金子皓彦コレクション

ミニ展示「横浜漆器 透き絵の世界」

常設展示室では、明治時代に横浜で製作され、寄木細工と同様に外国人を魅了した「透き絵」技法の漆器をテーマに、ミニ展示を開催します。併せてご覧ください。

▶透き絵小筆箱(部分)
金子皓彦氏所蔵

